

聖書:第一列王記9章1～14節

説教:この宮は廃墟となる

はじめに

ソロモンは父ダビデからイスラエルの王座を引き継ぎ、七年の歳月をかけて主の宮を建設し、続いて十三年かけて自分が住む宮殿を建てました。神殿が完成したとき、ソロモンはイスラエルの国中から主だった人々を集め、盛大に奉献式を行うことにしました。まず、主の契約の箱が、祭司たちの手によって、神殿の最も奥にあった至聖所との呼ばれるところに運び入れられます。そうすると、宮の中に雲が満ちて視界が遮られ、祭司たちが立ってられないほどになるという不思議な出来事が起こりました。神が御臨在されたという証拠です。

これを見たソロモンは心を動かされ、人々の前に立ちイスラエルのために七つの祈りをささげます。その祈りはすべて罪に関するもので、まとめればこういう祈りです。「民たちが罪を犯しても、もしも彼らがこの宮に来て、あるいは遠くにいて来られないというのなら、この宮に向かって罪を悔い改め、祈るならば、主はその願いと祈りを聞き届け、どうかその罪を赦してください。」そのような内容です。そうしてからソロモンはイスラエルを祝福し、たくさんいけにえが献げられて式典は閉じられました。

1 主

1) 再び現れた

そのように祈ったソロモンは、その後どうなったか。9章以降にそのことが記されていて、最初の箇所が今日開いている所です。1、2節を読みます。「ソロモンが、主の宮と王宮、および、ソロモンが作りたく望んでいたすべてのものを完成したとき、主は、かつてギブオンで現れたときのように、ソロモンに再び現れた。」

「ギブオンで現れたときのように」とあります。ソロモンがイスラエルの王座について間もないころのことです。彼がギブオンに滞在していたとき、夢の中で「あなたの民をさばくために、聞き分ける心をしもべに与えてください」と願ったことがありました。この願いが主の御心にかない、誰にも比べることのできないほどの知恵をソロモンに与えました。ですから前回のときから少なくとも二十年は経っています。

2) もしわたしの掟と定めを守るなら

主はソロモンに何を語ったのか。要点を確認していきます。4、5節。「もしあなたが、あなたの父ダビデの歩んだように、全き心と正直さをもってわたしの前を歩み、わたしがあなたに命じたすべてをそのまま実行し、わたしの掟と定めを守るなら、わたしが、あなたの父ダビデに、『あなたには、イスラエルの王座から人が断たれることはない』と約束したとおり、あなたの王国の王座をイスラエルの上にとこしえに立たせよう。」

これまで主は、この約束のことを二度語っていました。最初は、ダビデが主の宮を建てるべきであろうかと主に伺い、それに主が応えてくださったとき。そして二度目は、先ほど触れました、ソロモンがギブオンにいたときに夢の中で願ったとき。あのときも同じことを主は語っていました。そうするとこの箇所を含めれば、主は三度にわたって同じことを繰り返したことになる。繰り返すのですからそれほど大切だということになる。これが前半部分です。

3) もし背を向けて離れるなら

それに続く6、7節の前半まではこうです。「もし、あなたがたとあなたがたの子孫が、わたしに背を向けて離れ、あなたがたの前に置いたわたしの命令とわたしの掟を守らずに、行ってほかの神々に仕え、それを拝むなら、わたしは彼らに与えた地の面からイスラエルを断ち切り、わたしがわたしの名のために聖別した宮をわたしの前から投げ捨てる。」

主の命令と掟とを守るなら「イスラエルの王座から人は断たれない。」しかしもし主の命令と掟とを守らなければ、イスラエルは断ち切られ、宮を投げ捨てる。説明するまでもない。守ればよし、もし守らなければひどい災いが待っている。だから、主の命令を守りなさい。言いたいことは非常にシンプルです。

4) この宮は廃墟となる

でも気にかかることがあります。主の命令を守らなければ、イスラエルは災いを受ける。それはわかる。ところが話はそこでとどまらない。それに加えて、わたしの名のために聖別した宮をわたしの前から投げ捨てる。具体的に言えば、人々も「どうしてこんなことになったのか」とささやくほどの

廃墟にしてしまう、と語るのはなぜか。主はこの宮を聖別し、わたしの目と心はいつもそこにあると言うほどの宮を廃墟にするのですから、これは大変なことです。

ソロモンは神殿奉獻式の祈りの中で祈っていました。民たちがもし罪を犯したとき、もしもこの宮に来て悔い改めなら、罪を赦してください。そうすると神殿はどういう所なのか。自分たちの罪が赦されるかどうかの大切な場所なのです。もしその宮が廃墟になったならばどうなるか。罪を犯した者には、赦しをいただく場所がなくなってしまうことになる。なぜそのようなことをするのか。ソロモンがこのことをどう聞いていたのかを見ながら考えていきます。

2 ソロモンとヒラム

1) ヒラムの援助

ソロモンが神殿を建てようとしたときに、解決しなければならなかった問題が二つありました。一つは材料のことです。父ダビデはそれなりの準備をしていたのですが、金と杉材が徹底的に足りません。二つ目は職人のことです。仮に材料がそろったとしても、イスラエル国内には杉材を加工できる者、金属を加工できる職人がいなかった。そのことで頭を抱えていたとき、思いがけなく隣の国ツロの王であったヒラムから援助の申し出がありました。そのことがあったので神殿建設プロジェクトが大きく前に動き出したという経緯が過去にありました。

2) ガリラヤ地方の町を与えようとしたが

11節を見ると、ソロモンとヒラムは当初から、金と杉材をもらう代わりにツロの国の近くにある町をヒラムに与える、そのような約束を交わしていたようです。その約束にしたがって、ソロモンはガリラヤ地方にあった二十の町をヒラムに与えようとした。ところがヒラムがこれを見てカンカンに怒った。「兄弟よ。あなたが私にくださったこの町々は、いったい何ですか。」第二歴代誌には、ヒラムは町を返してしたことが書かれています。これはどういうことか。ヒラムは最初、ソロモンから神殿を建てたいので援助願えないかと聞いたとき、大いに喜んで必要なだけ貸してくれた。ところがソロモンは、その借金を踏み倒してしまった。わかりやすく言えばこんなことです。

あの主の宮を建てたソロモンがです。イスラエルの民に向かって、主の命令と掟とを守るようにと忠告していたソロモンが借金を返さない。当然です

が、聖書には借金を返さなくて良いということは書いていない。借りたものは借りた分だけきちんと返すべきであり、もし返さなかったのならそれは盗んだことになると思います。ソロモンは神から知恵を与えられていた人です。ヒラムから借りた金額がどれくらいに相当するか、正しく判断できたはずですが。それなのにヒラムが怒るほど価値のない二束三文の町ばかりを集めて渡せばよいと考えた。いったいソロモンはどうしてしまったのか。首をかしげたくなります。

一度の失敗であればまだよかったかもしれない。しかしソロモンは外国から妻を迎え、その妻たちが信じていたほかの神々を拝んでいきます。主は何度も警告します。ところがソロモンは軌道修正しない。ますます主から離れて行きます。その結果、やがて主の警告どおりに、イスラエルは外国に攻められ滅んでいきます。主の命令を守らない者の運命はこうなる。主からの厳しい警告です。

3) 失敗するソロモン

私たちはどうすればよいのでしょうか。ソロモンの失敗を戒めとして、主の命令を守るように努力すべきなのでしょう。いつも言いますが、できると思う方はそうしてみればよい。パリサイ人や律法学者たちも、主の掟を守ることができると信じていました。その結果、どうなったか。主イエス・キリストを十字架につけて殺しました。人間は努力さえすれば主の掟を守ることができると信じる者はどうなるか。結局、神のひとり子を殺してしまう。実に皮肉なことです。

ソロモンが主の命令と掟とを守れなかったために、やがてイスラエルは滅ぼされます。主の宮は投げ捨てられ、破壊され廃墟となっていきました。いったいどうしたらよいのでしょうか。

3 イエス・キリスト

1) 十字架で崩される

主が、目に見える建物の神殿のことだけを指して語っていたのなら、そこには何の希望もありません。結局人間はなんとかして神の命令を守るよう努力するしか救いの道がないということになる。しかし、イエス・キリストが私たちのところに来られたとき、神殿とは建物のことではなく、イエスご自身のからだのことを指すのだとはっきりと教えてくださいました。そこで、初めて主がソロモンに語ったみことばの豊かさが見えてきました。

その神殿が廃墟となる。もしそれで終わりなら、どこにも赦しを得る場所がなくなってしまう。そ

のように見えました。でも、イエスのからだはここで崩されたのか。十字架です。なぜ崩されることになったのか。私たちが、神にそむき、主の命令と掟とを守らなかったからです。本当ならそのさばきは私たちが受けなければならなかった。ソロモンも、神の道から外れ、異教の神々を拝んで罪を重ねて神にそむいたのですから、そのさばきを受けるべきはソロモン自身だった。ところが、ソロモンはさばきを受けない。その代わりに神殿が廢墟となる。

同じことは私たちにも言える。さばきを受けなければならないのは私たちなのに、私たちは何のさばきも受けない。神は罪を見過ごしてくれた、ではない。私たちの代わりに主が十字架でさばきを受けられた。そのことをすっかり忘れていただけなのです。

2) イスラエルの王座から人は断たれない

どんなことをしようとも主の命令と掟とを守ることができない私たちです。では、主の命令はどうなるのでしょうか。誰も守れないのですから、まるで絵に描いた餅です。意味がない。意味がないことを神は言うはずがありません。

だれかが守れるから語った。誰が守ったのか。私たちの主です。なぜ主だけが守れるのか。罪のないお方だからです。主が、私たちの代わりに主の命令と掟とを守ってくださいました。いや、イエスは十字架でさばきを受けたのではないのか。主の命令と掟を守れなかったとからさばかれたのではないのか。話が逆です。私たちが守れなかったために、私たちはこの方を十字架で殺した、と言わなければなりません。十字架で、人が断たれたように見えました。でもこの方は三日目によみがえられました。イスラエルから人が断たれなかった。イエスと言う方が主の命令と掟とを守ってくださいましたがゆえに、神は約束を忘れずに果たしてくださいました。

神は、そのようにしてくださった主イエス・キリストに免じて、私たちの罪を赦す。主がソロモンに語ったことはそのようなことでした。

十字架は決して偶然の出来事ではありません。時代を超えた神の壮大な計画の中で進められていた。その中で私たちは救いに入れられていたことをもう一度覚えたいと思います。